

研究集会

コロナ禍において移動制約者の交通行動と意識はどう変わったか ～統合的バリアフリールート整備に向けて

新型コロナの感染拡大とそれともなう移動自粛によって、人々の外出頻度・行動範囲・移動手段が激変したことは良く知られています。しかしそれはいわゆる健常者についてであって、高齢者や障がい者などの移動制約者の移動がコロナ禍によってどう変わったのかはあまり知られていません。従来から移動制約者は階段などの物理的バリアを苦勞して避けて移動してきました。そして今回あらたに前景化したのは感染リスクという見えないバリアです。これらのバリアが移動制約者の移動と意識に与える影響を、いくつかの調査とデータから明らかにすることが本研究集会の目的です。

登壇者の本間健太郎・日下部貴彦・丹羽由佳理・新井祐子は、来たるべき“超超”高齢社会にむけて、移動制約者が安全安心かつ効率的に移動できるよう、シームレスなバリアフリールートを計画する方法の開発を目的として研究を進めています。そのためまず移動制約者の移動の実態とニーズをつかむべく、いくつかの調査を行いました。本研究集会ではそれらの成果について発表し、議論します。

また中村文彦氏をキーノートスピーカーとしてお招きしています。都市交通の分野において学界のみならず地域の現場にも精通しておられる中村氏から、バリアフリー化推進プロジェクトをはじめとして、携わられた数々のプロジェクトを紹介いただきます。そして本研究集会の最後に、全発表者5名でパネルディスカッションを行い、発表する研究成果をどう位置づけ、今後どのように研究・実践を発展させるべきかについて議論します。

移動制約者がどのような移動をしているか、それがコロナ禍においてどう変わったか、将来はどうなりそうか、という本研究集会で議論される問いと答えが、統合的バリアフリールートの整備計画に役立つことを期待しています。

2021/10/23 (土) 14:00-15:45 オンライン (Zoom ウェビナー・予約不要)

[趣旨説明・発表] 本間健太郎 (建築デザイン数理/東京大学 生産技術研究所)

移動制約者の交通行動と意識 ～統合的バリアフリールート整備に向けて

[キーノートスピーチ] 中村文彦 (都市交通計画/東京大学 新領域創成科学研究科)

超高齢社会におけるモビリティ・デザイン

[発表1] 日下部貴彦 (交通シミュレーション/東京大学 空間情報科学研究センター)

緊急事態宣言の発令に関連した都市交通行動変化の分析

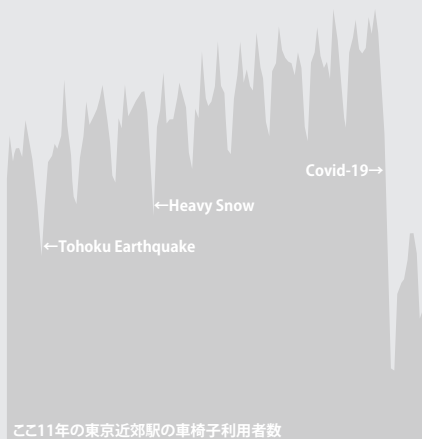
[発表2] 丹羽由佳理 (交通災害弱者の都市計画/東京都市大学)

COVID-19の感染拡大が高齢者の鉄道利用意識に及ぼす影響

[発表3] 新井祐子 (駅の建築計画/東京大学大学院・東日本旅客鉄道)

鉄道駅の車いす利用者数の時系列分析

[パネルディスカッション] 上記5名



Zoom ウェビナーへは、QRコードか、URLか、IDとパスコードで入室できます。

URL: <https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/89589393572?pwd=ZzI5eWU0RGZlenJPM05uQ0s0aUJ4QT09>

ID: 895 8939 3572 パスコード: 099161

問合せ: 本間 (khomma@iis.u-tokyo.ac.jp)

